

様へ

月日	月 日	月 日	月 日
経過	手術前日(入院日)	当日(術前)	当日(術後)
目標	○心身ともに安定した状態で手術を受けられる ○治療に対する不安を表出できる		○術後合併症を起こさない(出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞)  ○合併症予防のためのリハビリ(歩行訓練呼吸訓練)が行える
検査	身長、体重測定 採血		採血
食事	※朝食は軽食とし、ご自宅で 昼から絶食(水、茶、スポーツドリンク可) 21時以後絶飲食 経口補水液は、麻酔科の指示で服用	絶食(水分は医師の指示で再開)	朝より水分制限なし
処置・観察	リストバンドを装着します(退院日まで)  弾性ストッキングのサイズを測定し、お渡しします  臍処置します(シャワー前)	朝 浣腸します  時間になれば、看護師が手術室にご案内します	手術後以下の挿入物、装着物があります ・酸素マスク → 取り外します ・心電図モニター → 取り外します ・点滴の管 → ・背中のチューブ(鎮痛剤) → ・創部の管(ドレーン) → ・尿道カテーテル → ・フットポンプ(血栓予防) → 取り外します  創部を観察、処置を行います
	状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります		
注射・内服	持参薬、お薬手帳を看護師にお渡しください  下記を服用します ・昼 250ml の下剤 ・夕、抗菌薬 ・眠前→下剤、抗菌薬	以下の点滴を行います ・持続点滴 ・抗菌薬 ・鎮痛剤	腸蠕動促進薬を服用します  夜 血栓予防薬を皮下注射します
行動・リハビリ	シャワー浴、洗髪をします  	以下の手術準備をします ・手術着に着替え ・弾性ストッキング装着 ・入れ歯、アクセサリ、時計等の取り外し	午前中 全身清拭し、手術着からパジャマに着替えます  付き添いのもと、リハビリを開始します
説明	主治医・麻酔科医より説明(外来又は入院時) ・治療計画について ・手術について ・麻酔について 病棟・手術室看護師より説明 ・入院生活について(パスシートを使用) ・手術について 薬剤師より説明 ・持参薬確認 ・使用薬剤について	医師より説明 ・手術の結果について  看護師より説明 ・術後の注意点について ・安静について ・痛み止めの使用方法について	

\* 入院に際して、この用紙を必ずお持ちください

\* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。定期的に栄養状態の再評価を行い計画を見直します。

\* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともあります。

月日	月 日	月 日	月日～月日	月 日～月 日							
経過	術後2日目		術後3日目		術後4～5日目		術後6～8日目(退院日)				
目標	術後合併症を起こさない(出血、深部静脈血栓症、肺炎、縫合不全、感染、腸閉塞) 合併症予防のためリハビリ(歩行訓練、呼吸訓練)が行える						排便コントロールが図れる 退院後の日常生活上の注意点が述べられる				
検査											
食事	朝より流動食開始		朝より全粥食		4日目 朝より常食			退院日は朝食のみ			
処置・観察	以下の挿入物があります ・点滴の管 → 点滴が不要となれば抜去します ・背中のチューブ(鎮痛剤) → 術後2～3日で抜去します ・創部の管 → 状況を見て術後3～7日で抜去します ・尿の管 → 術後2～3日で抜去します						退院時にリストバンドを外します				
		創部を観察、処置を行います									
	状況に合わせて、体温・脈拍・血圧・酸素飽和度を測ります										
注射・内服	以下を服用します ・腸蠕動促進薬 ・鎮痛剤							以下の退院処方があります ・下剤 ・鎮痛剤			
	夜 血栓予防薬を 皮下注射します		朝、夜 血栓予防薬を 皮下注射します								
	以下の点滴を行います ・朝、夕点滴 ・鎮痛剤		徐々に点滴量が減ります								
行動・リハビリ	状況に合わせて、看護師が全身清拭、洗髪、足浴します						創部の治癒状況に合わせて シャワー浴を再開します (週3回、病棟毎で日が異なります)				
	尿道カテーテル抜去後はトイレで排尿できます										
	付き添いのもとりハビリを継続します (安静度やリハビリの進行には個人差があります)						(退院日) 朝食後退院です				
説明・指導					医師より ・退院後の療養計画、療養上の留意点について			看護師より ・退院後の療養生活について (退院療養計画書をお渡しします)			
					栄養士より ・退院後の食事について			療法士より ・退院に向けて			

